



第2回

10分の1「大和」徹底解剖

⑨木甲板



「大和」の露天甲板には木が張られていた



木甲板

艦船の最も上の部分にある水平装甲板の上に木材を張った甲板です。



「大和」の甲板（露天甲板：最も上の部分の甲板）には木材が張られています。



鋼鉄の甲板の上に、なぜ、わざわざ木材を張るのでしょうか？

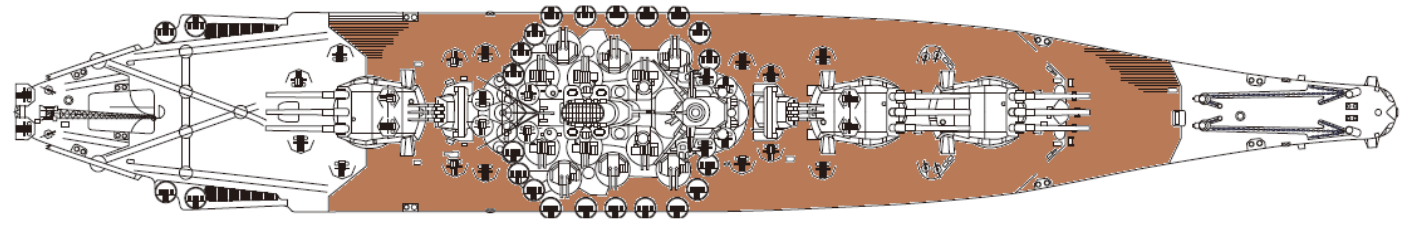


いくつかの理由があります。
 おもな理由は次のようなものです。

- 帆船の時代から、戦艦の甲板には木甲板を張るという伝統がある。
- 木が張ってあると歩きやすい。
- 甲板の下にある部屋を熱から守る。

使用する木材は、通常はチーク材でしたが、大正9（1920）年に呉海軍工廠で竣工した戦艦「長門」から、台湾ヒノキ材が使用されていました。

昭和20（1945）年4月最終時の「大和」を上から見ると、これだけの範囲に木甲板が張られていました。（艦首錨甲板、後部、レール甲板から艦尾までを除く部分）



10分の1「大和」に張られた木甲板の一部分

[匠の技]

- > 木甲板張りつけ作業を担当したのは、棟梁の大下俊明さん。
- > 大下さんは終戦のころ、少年工として海軍工廠で働き、戦後は長く造船所で鉄船や木造船の仕事をしてきた方です。
- > 木目だけが1/1スケールにならないように、台湾ヒノキ材ではなく、木目が詰まって色合いも良いタモ材を採用しました。
- > 前後左右にうねりを持ち、船の形そのままに舷側がカーブしている甲板にまっすぐ板を張るのは至難の業です。
- > 4か月かけて幅15ミリの板を一枚一枚手作業で張っていきました。